



おきひろ 昭夫
あきひろ 昭夫
うすい 昭夫
碓井 昭夫

質問 QUESTION

緊急時の情報伝達は 大丈夫か

回答 ANSWER

災害時の情報伝達手段 の拡充を検討します

〔総務課長〕

質問 今年も大きな災害が各地で発生し住民を震え上がらせました。東海・東南海地震がさげばれている昨今、私たちの町は大丈夫でしょうか。

過日、熊本地震の現地を視察することができ、改めて地震の怖さを認識しました。

市役所の担当者から当時の状況説明を聞き、

その中で一番大切なことは「緊急時の確かな情報をいち早く住民に知らせることの大切さを痛感しました」と説明がありました。

そこで、お尋ねします。わが町の緊急情報伝達は大丈夫でしょうか。

私たちの町には広報無線があり、緊急時の情報伝達や日常の伝達などに効果を発揮しています。そこで、無線機の設置状況を調べましたら、無線機のない家庭が想像以上に多くあり驚いています。新しく入居された方をはじめ、いまだ設置がされていない家庭も多くあり、また機材が古く雑音等で電源を入れない家庭もあります。

”備えあれば患いなし” 緊急時の情報伝達に備えてさらに強力な指導をお願いします。



屋外拡声器 (写真上)・戸別受信機

す。

さらには、屋外拡声器の設置も検討を！風向き等により、聞き取れないこともしばしばあり、設置場所等を含めて検討していただきたい。

安八水害から40年、忘れかけている災害を今一度思い起こし、強固な防災活動を積極的に推し進めていただきたい。

町にとって、忘れ得ぬ大災害でした、9・12安八水害から40年が経ち、災害に伴うシンポジウムや企画展を開催し、多くの方に参加していただきました。

広報無線は、災害時の重要な役割を果たしています。導入して28年が経過しています。大きな更新はしておらず、経年劣化により雑音等が発生する問い合わせもあり、役場で調整、修理を行い改善しています。また、戸別受信機の設置台数の割合は75・3%です。

屋外拡声器の増設は財政負担も大きく、これまで行っていません。今できることは、防災行政広報無線を核として、サイレン、緊急速報メール配信サービスおよびテレビ等をリンクさせ、災害情報を提供していきます。

今後は、屋外拡声器の増設を含む災害時の情報伝達手段の拡充を検討し、安全・安心のまちづくりに取り組みます。